

「探究とは何か」の受講高校生の傾向

宮下伊吉*1

*1 三重大学

Trends of high school students attending “What is Inquiry-based Learning?”

Ikichi Miyashita*1

*1 Mie University

高等学校学習指導要領改訂により 2022 年度より全国で本格的に取り組まれている探究的な学びに対し、大学はこれまでの体験学習とは異なる深い関りが求められている。本稿では高校からの依頼を受けて実施した、「探究とは何か」をテーマにした高 1 生対象の講座において、Google フォームを使った事後ワークの結果より、高校生の興味・関心や考え方等の傾向を読み取り、複数のグループに分けてその特徴をまとめた。

キーワード: 探究, 高大接続, ICT

1. はじめに (背景)

高等学校学習指導要領改訂により、探究的な学び(社会と自己との関わりから問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理分析し、まとめ・表現でき、課題発見・解決に向けて互いの良さを生かしながら新しい価値創造とよりよい社会を実現しようとする態度を養う)の取り組みが増え始めている。一方で、「自ら問い、課題を立てられない」生徒が多い、探究的学びを推進できる諸条件(人的・予算的等)が整っていない等の高校現場の声もあり、高大連携のあり方もより深い関りが求められている。本稿では、筆者が A 高校の依頼を受け、総合的な探究の時間において、「探究とは何か」をテーマに講座を担当する機会を得たことから、「探究」に対する高校生の態度の実態を確認する。

2. 実施と結果

2.1 目的と対象

探究的な学びへの取り組みには、高校生の興味・関心や考え方等によりどのような傾向がみられるかを明らかにすることを本稿の目的とした。対象は、前述の

A 高校 1 年生全員 200 名を対象とした「探究とは何か」の講座受講者のうち、Google フォームを使った事後ワークに取り組んだ 135 名である。

2.2 方法

受講対象の高校生には、高校の探究活動担当教員を通してワークシート(事前ワーク用と当日ワーク用の記入欄、事後ワーク用の Google フォームの QR コード入り)の配布を依頼し、実施した。(図 1)

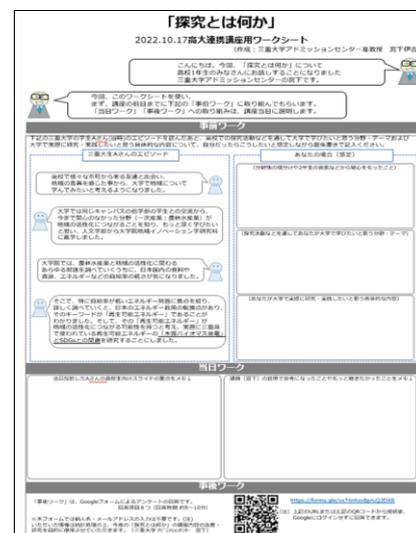


図 1 ワークシート

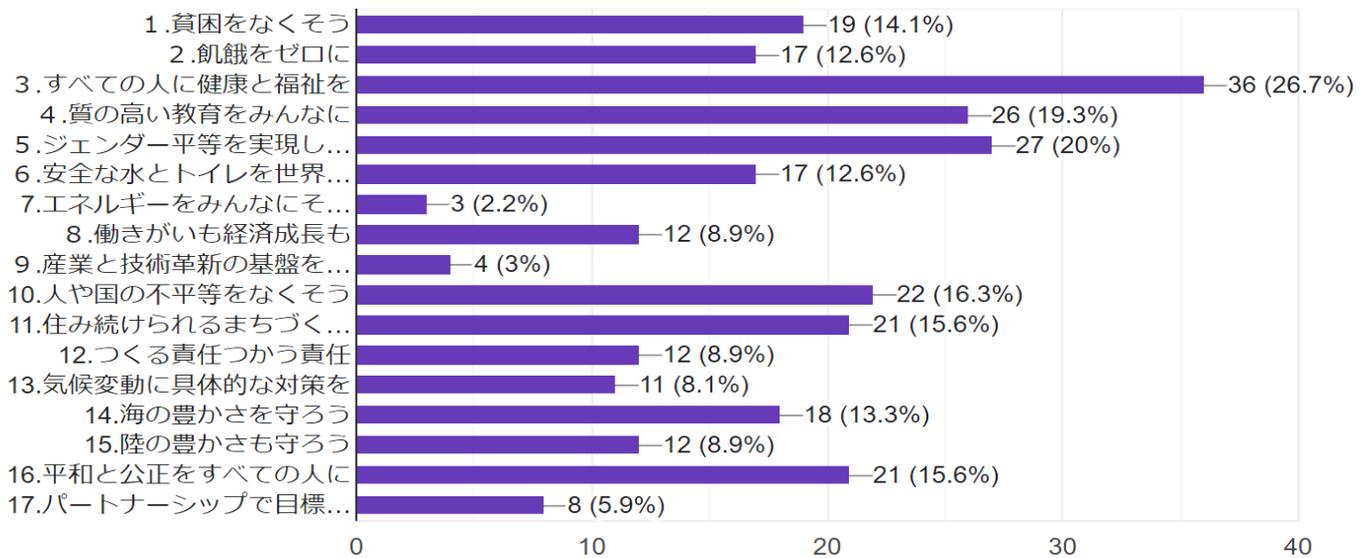


図 1 SDGs の 17 の目標に関する関心 (二つ選択) n=135

【高校指定の6分野】	チーム観		リーダー観		探究の傾向		解決の方向		いずれにもあてはまらない	
	異なる意見や対立を恐れずに新たな発想を生み出す	同じ意見が多いほうがチームとしてのまとまりがよいと思う	一人ひとりの特徴を把握し、役割を明確にできる	言いたいことを発言しながら全体を引っ張るリーダーが良いリーダーだと思う	自分はいろいろな分野から広く考え続けることができると思う	自分は一つのことを深く掘り下げ続けることができると思う	自分は未来(理想)をイメージし実現しようとする傾向が強いと思う	自分は現在の疑問をすぐに明らかにしようとする傾向が強いと思う		
自然科学・環境系： ④環境への課題 ⑤自然科学(化学・生物・数学など)への疑問	25	10	7	11	2	8	6	5	8	0
医療福祉・教育系： ②医療、福祉の課題 ③教育の課題	46	22	10	18	3	9	8	13	13	0
人文・社会系： ①まちづくりの課題 ⑥人文科学(文学・歴史・語学・心理学など)への疑問	64	25	17	21	9	11	22	17	16	4

表 1 考え方の傾向 (複数選択)

Google フォームには、高校指定のこれから取り組む予定の探究活動の 6 分野や、SDGs の 17 の目標といった「興味・関心を確認する項目」のほかに、自分の考えにあてはまりそうだと思う項目「考え方を確認する項目」、「講座の満足度に関する項目(自由記述含む)」、事前ワーク後と講座受講後の振り返り(5 件法で 5 とでもあてはまる～1 全くあてはまらない)に関する「振り返り項目」の 4 種類の項目を設定した。

2.3 結果 (興味・関心)

「興味・関心を確認する項目」では、高校指定の 6 分野のうち、⑥人文科学(文学・歴史・語学・心理学

など)への疑問(37.8%)と①まちづくりの課題(9.6%)の人文・社会系の分野が 47.4%。②医療、福祉の課題(18.5%)と③教育の課題(15.6%)の医療・福祉・教育系の分野が 34.1%。⑤自然科学(化学・生物・数学など)への疑問(13.3%)と④環境への課題(9.6%)の自然科学・環境系の分野が 18.5%であった。いわゆる文系志向の生徒が多いことが A 高校自体の特徴といえる。SDGs の 17 の目標(最も関心のあるものを二つ選択)のうち、関心が高い上位 2 項目が「3.すべての人に健康と福祉を(26.7%)」「5.ジェンダー平等を実現しよう(20.0%)」、関心が低い下位 2 項目が「9.産業と技術革新の基盤をつくろう(3.0%)」「7.エネルギー

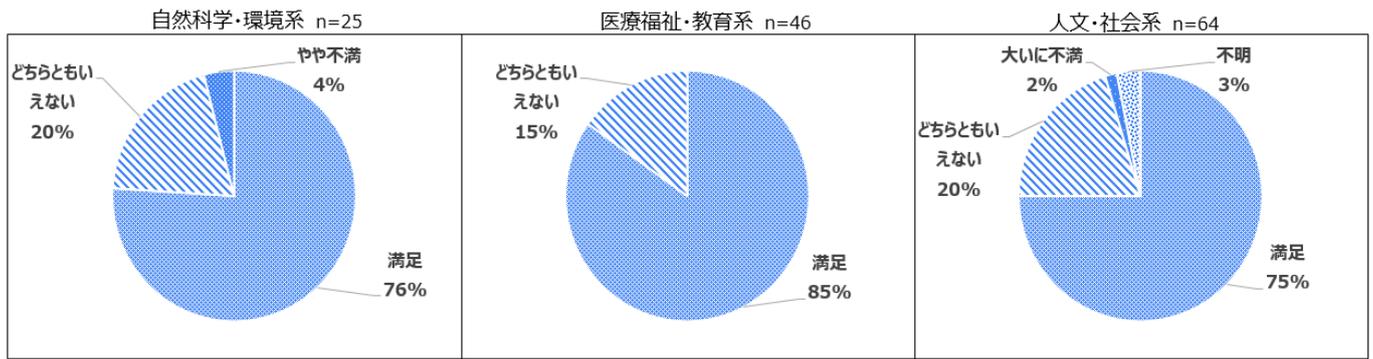


図 2 分野別の受講満足度

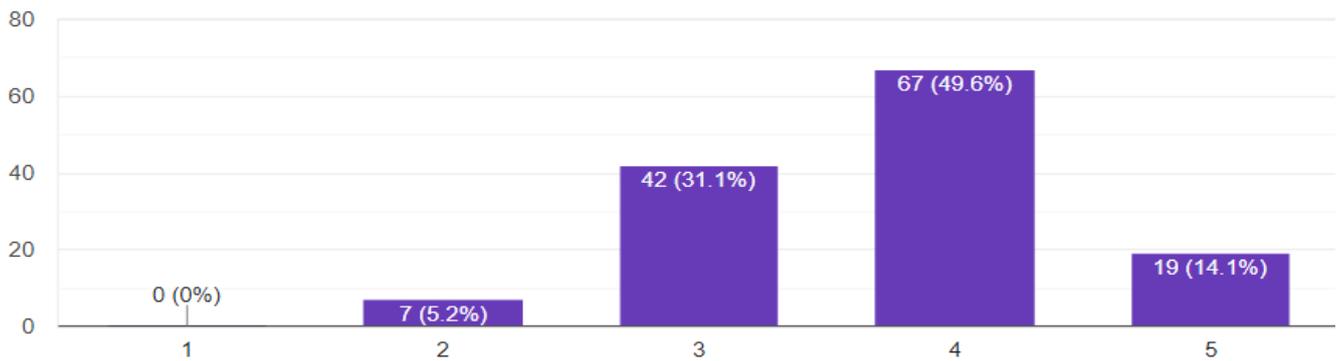


図 3 事前ワークの振り返り n=135

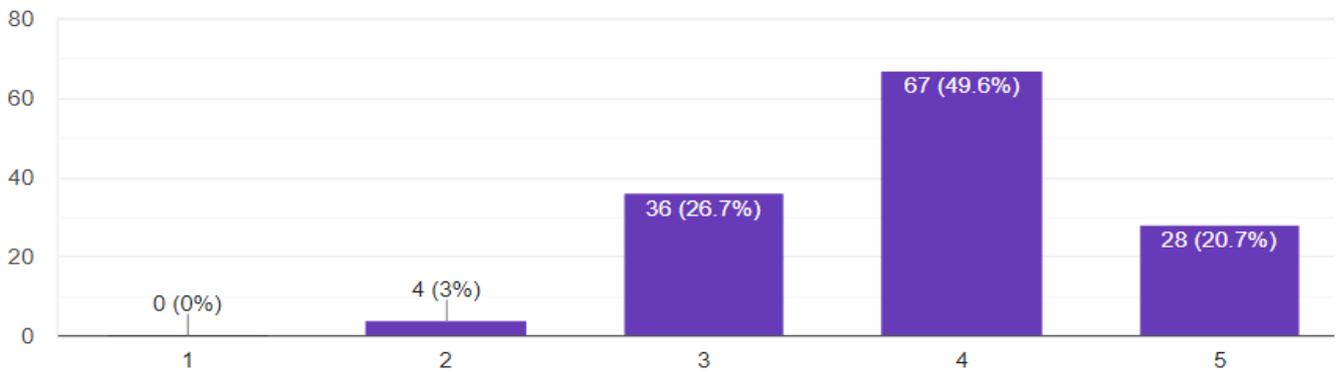


図 4 当日ワークの振り返り n=135

一をみんなにそしてクリーンに (2.2%)」であることから自然科学・環境系志向の生徒が少ないといえる。

2.4 結果 (考え方)

「考え方を確認する項目」では、チーム観、リーダー観、探究の傾向、解決の方向の4つに分け、人文・社会系と医療福祉・教育系および自然科学・環境系の3分野で特徴を比較した。すると、最も大きな特徴を示したのが、リーダー観である。いずれの分野も「言いたいことを発言しながら全体を引っ張るリーダーが良いリーダーだと思う」よりも「一人ひとりの特徴を

把握し、役割を明確にできるリーダーが良いリーダーだと思う」を選択する傾向が強い。分野で傾向の違いが表れている項目は、探究の傾向とチーム観である。探究の傾向では、人文・社会系の分野が「自分はいろいろな分野から広く考え続けることができると思う」よりも「自分は一つのことを深く掘り下げ続けることができると思う」を選択する傾向がみられるが、他の分野ではあまり差はみられないチーム観では、全分野とも「同じ意見が多いほうがチームとしてのまとまりがあって良いと思う」よりも「異なる意見や対立を恐れずに新たな発想を生み出すチームが良いと思う」を

選択する傾向があり、特に医療福祉・教育系の分野においてはその傾向が顕著である。(表1)

2.5 結果 (満足度)

「講座の満足度」(5件法:とても満足, やや満足, どちらともいえない, やや不満, 大いに不満)を分野別で比較すると、医療福祉・教育系が満足(とても満足+やや満足)を85%と最も高い満足度を示し、不満(やや不満+大いに不満)はみられなかった。ただし、「とても満足」のみでは、人文・社会系が58%と最も高い比率を占め、医療福祉・教育系は33%であった。(図2)

「とても満足」と回答した人文・社会系の高校生の回答理由には、「これからの探究のため、テーマの決め方やどのように調べていったらいいのかわかりやすく聞くことができたから」との記述がみられた。一方、不満(やや不満+大いに不満)の回答理由についての記述はみられなかったが、「どちらともいえない」と回答した理由については、「まだ明確な目的を持っていないから」「大学でのテーマが主だったので想像しづらいところが時々あったから」「少し聞き取りづらかった」との記述がみられた。

2.6 結果 (振り返り)

「振り返り」のうち、事前ワークでは、「事前ワークを通して、探究活動でどのようなテーマや問いにしたいかをもっと自分でよく考えるようになったと思う」について5件法(5とてもあてはまる~1全くあてはまらない)で最もよくあてはまるもの一つを選択回答させた。その結果、5+4の「あてはまる」の比率が63.7%であった。2+1の「あてはまらない」は5.2%(1全くあてはまらないは0%)であった。(図3)

一方、当日ワークでは、「当日ワークを通して、探究活動でどのようなテーマや問いにしたいかを、事前ワークの時よりも、もっと自分でよく考えるようになったと思う」について、事前ワークと同様の5件法で確認した結果、5+4の「あてはまる」の比率が70.3%であった。2+1の「あてはまらない」は3%(1全くあてはまらないは0%)であった。(図4)

3. まとめ

今回、「探究とは何か」をテーマに高1生対象の講座でGoogleフォームを使ったワークの実施にあたり、高校生のチーム観(対立を恐れず新たな発想を生み出すか、同じ意見重視か)やリーダー観(一人ひとりの特徴を把握し役割を明確にできるリーダーか、言いたいことを言って全体をひっぱっていくリーダーか)および探究の傾向(いろいろな分野から広く考えるか、一つのことを掘り下げ深く考えるか)、解決の方向(未来の理想か、現実の問題か)という項目を設定した。設定時点では、探究的な学びに対して、「自ら問い、課題を立てられない」生徒が多い場合は、明確な傾向や特徴が表れないかもしれないと懸念していたが、しっかりしたチーム観やリーダー観を持っている印象を受けた。今後の課題は、探究の傾向であまり高い傾向がみられなかった「いろいろな分野から広く考えていく」能力・スキルを高めていく機会を増やすとともに、高校生の目線に沿ったコンテンツを増やしていく必要があるのではないかと考える。

謝辞

今回ご依頼を頂きました高等学校関係者のみなさまをはじめ、何よりも事前ワークから講座当日のワークとGoogleフォームによる事後ワークに熱心に取り組まれた生徒のみなさんに厚く御礼申し上げます。

参考文献

- (1) 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説「総合的な探究の時間編」,https://www.mext.go.jp/content/1407196_21_1_1_2.pdf(2023年2月8日確認)
- (2) 宮下伊吉, “高大連携における学生主体の活動による受講者満足度への影響”, 令和元年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会(第14回)研究会発表予稿集, pp252.255(2019)
- (3) 宮下伊吉, “SDGs探究MAPを使った高大連携セミナー”, 日本教育工学会2020年春季オンライン全国大会発表論文集(2020)